

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	子ども家庭局 子ども家庭部 総務企画課
評価対象期間	平成 26 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

1 指定概要

施設概要	名 称	北九州市立子どもの館 北九州市立子育てふれあい交流プラザ	施設類型	I	目的・機能	— ⑦
	所在地	【子どもの館】 八幡西区黒崎三丁目 1 5 番 3 号 COM CITY 7 階 【子育てふれあい交流プラザ】 小倉北区浅野三丁目 8 番 1 号 AIMビル 3 階				
	設置目的	【子どもの館】 ●子どもたちに充実感や達成感を得ることのできる遊びや様々な年代の人たちとの交流の場を提供することにより、子どもの豊かな感性や想像力を育む。 ●子育ての情報収集と交換の場を提供し、子育ての不安を解消しそれにより子どもの健やかな成長を支援する。 【子育てふれあい交流プラザ】 ●0歳から就学前の親子や妊産婦を対象に、子どもの感性を育み、子育て中の親が持つ負担・不安感を解消し、地域の子育て支援の活性化を図る。				
利用料金制		非利用料金制 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制				
		インセンティブ制 有・ <input type="checkbox"/> 無		ペナルティ制 有・ <input type="checkbox"/> 無		
指定管理者	名 称	NPO法人子ども未来ネットワーク北九州				
	所在地	北九州市小倉南区北方二丁目 1 5 番 2 1 号				
指定管理業務の内容		●施設の維持管理にかかる業務 ●子育てに関する取り組みの支援や実施に係る業務 ●子育て支援活動を行う市民団体への活動の場の提供及び活動支援 など				
指定期間		平成 2 6 年 4 月 1 日～平成 3 1 年 3 月 3 1 日				

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント		配点	評価 レベル	得点																				
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み		50		43																				
(1) 施設の設置目的の達成 ① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。		35	4	28																				
[評価の理由、要因・原因分析] 【子どもの館】																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>利用者数</th> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> <th>H28年度</th> <th>H29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>要求水準</td> <td>763,000人</td> <td>778,000人</td> <td>797,000人</td> <td>798,000人</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>763,000人</td> <td>778,000人</td> <td>797,000人</td> <td>798,000人</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>789,702人</td> <td>818,267人</td> <td>806,900人</td> <td>809,090人</td> </tr> </tbody> </table>					利用者数	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	要求水準	763,000人	778,000人	797,000人	798,000人	目標値	763,000人	778,000人	797,000人	798,000人	実績	789,702人	818,267人	806,900人	809,090人
利用者数	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度																				
要求水準	763,000人	778,000人	797,000人	798,000人																				
目標値	763,000人	778,000人	797,000人	798,000人																				
実績	789,702人	818,267人	806,900人	809,090人																				
<p>平成13年11月に開館した「子どもの館」は、平成28年に開館15周年を迎え、平成29年9月には、入館者が累計800万人に達成するなど、多くの方々に利用されている。</p> <p>① 指定管理業務の実施状況</p> <p>年間を通して、子ども、親子、世代を超えて楽しめるイベントのほか、子育て支援、青少年の健全育成に向けて、親子のふれあい・自然にふれる・科学に親しむ・文化にふれるなど、さまざまな体験イベントを実施した。また、子育てについて小児科医による無料相談や看護師による勉強会、子どもの発達段階に応じたベビーマッサージや親子リズム体操、親子体操教室を開催するなど、子育て支援にも取り組んだ。</p> <p>平成26年度から27年度において、入館者数は順調に増加しており、また、数値目標も達成している。</p> <p>平成27年度は、「変身スタジオ」コーナーが改設されたことなどにより、目標入館者数を大きく上回り、過去最高を記録した。</p> <p>平成28年度以降についても、年間を通じて積極的に集客イベント等を実施したことにより、年間目標入館者数を上回る結果となった。</p> <p>② 利用者増の取組み</p> <p>ア 夏休み特別展の開催（指定管理者による独自の取組み）</p> <p>夏休み期間中に、子どもと子育て家庭に、いつもとは違った特別の「子どもの遊びの場」を提供することにより、様々な体験や学習、出会い、交流を通して、豊かな感性や創造力を育むとともに、親子や人と人との繋がり大切さ、子育ての喜</p>																								

びを実感してもらう「夏休み特別展」を開催し、多数の入館者があり盛況だった。「夏休み特別展」の入館者数は下記のとおり。

	入館者数	入館者数/日	開催期間	テーマ
平成 26 年度	236,486 人	5,375 人	44 日	～できた！わかった！ひらめいた！～ 「パズ・プロ王国」
平成 27 年度	234,029 人	5,201 人	45 日	～五感でキャッチ～ 「まさか?!の錯覚展」
平成 28 年度	190,183 人	4,755 人	40 日	あそびとおもちゃの タイムトラベル
平成 29 年度	234,371 人	5,327 人	44 日	とびだせ！おはなし の世界へ ～主人公は君だ～

イ 開館周年記念の取組みとして、各コーナーを無料開放し、たくさんの利用者を楽しんでいただいた。

(平成 26 年度 11,216 人 平成 27 年度 11,895 人 平成 28 年度 9,353 人
平成 29 年度 8,978 人)

ウ 団体利用促進

市内及び近隣市町村の保育所・幼稚園に「団体利用の手引」を配布し、団体利用の促進を図った。また、利用しやすいようバス駐車場、昼食場所などを確保し便宜を図った。

③ 施設間の連携

ア 下記 3 事業について、両施設で開催するなど、イベントの連携を図り、利用者から好評を得た。

・赤ちゃん同窓会（指定管理者による独自の取組み）【各年度 4 回実施】

同じ年に生まれた赤ちゃんとその保護者を対象に、気軽に話しあえる交流の場を提供し、子育ての不安感や孤独感の解消を図ることを目的に実施するもの。

・もったいないバザール（指定管理者による独自の取組み）【各年度 3～4 回実施】

家庭で不要になった子育て用品、育児用品、おもちゃ等を集め、必要としている方に無償提供するもの。

・男 2 代の子育て講座「ソフリエ・パパシエ」認定講座【各年度 1 回実施】

(指定管理者による独自の取組み、平成 26 年度より市と協働事業)

父親や祖父が子育てに関する基本的な知識や技術を習得し、男性の育児参加を促進するもので、1 歳未満及び 1 年以内に誕生予定の子の父親や祖父を対象とした育児講座。子育ての基本知識から遊び方までを学習し、受講後には市から「パパシエ」あるいは「ソフリエ」の認定を受けるもの。

イ 両施設内に毎月のイベントポスター、イベントチラシの設置等、共同広報を行い、相乗効果を図った。

④ 営業・広報活動

テレビ CM やラジオ、インターネット、市内の保育所・幼稚園・小学校などへのチ

ランの配布、地域イベントにおけるPR、子育て情報誌等への広告掲載などによる広報活動を行った。

【子育てふれあい交流プラザ】

平成17年12月に開館した「子育てふれあい交流プラザ」は、平成29年8月末には入館者数が累計500万人に達成するなど、多くの親子や子育て支援者などに利用されている。

① 指定管理業務の実施状況

子育て支援（子どもが新たな発見や創造への喜びを感じることができる遊び場の提供）、親育ち支援（育児や不安や悩みを解消するための相談や講習の実施）、地域子育て支援（子育て支援を行うNPOやサークルの活動支援）を念頭に、子どもや保護者、地域の子育て支援団体等を対象にした様々な事業を、年間を通して計画的に実施した。

各年度別に入館者数は下記のとおり。

利用者数	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
要求水準	433,000人	434,000人	435,000人	436,000人
目標値	433,000人	434,000人	435,000人	436,000人
実績	424,810人	442,415人	450,762人	424,986人

平成26年度から平成28年度までは順調に入館者数が伸びており、ほぼ目標を達成できている。平成29年度の入館者数の減少は、集中豪雨や台風による臨時休館、インフルエンザによる幼児の外出控えなどが影響していると考えられる。

② 利用者増の取組み

ア 夏のスペシャルイベントの開催（指定管理者による独自の取組み）

大型連休や夏休みをはじめとした長期休みに集客事業を実施し、また、年間を通して季節に応じたイベントを展開した。中でも例年人気の「夏のスペシャルイベント」では、多くの人で賑わった。

「夏のスペシャルイベント」の入館者数は下記のとおり。

	入館者数	入館者数/日	開催期間	テーマ
平成26年度	15,706人	524人	30日	元気のもりはおもちゃ箱 だいすきみ〜つけた 等
平成27年度	14,044人	485人	29日	おいでよ!!自然ミュージアムin元気のもり 等
平成28年度	14,772人	616人	24日	おいでよ!!自然ミュージアムin元気のもり 等
平成29年度	6,137人	205人	30日	牧野伊三夫展「足立山 といのしし」 等

イ 元気のもり縁日（指定管理者による独自の取組み）

飲食及び創作ゲームなど、常設サービスにはない付加価値を提供するにぎわいづ

くりを、月に3回程度（年間30回程度）開催した。長期休暇時には、回数を増やし、内容も定期的に入れ替えた。

③ 施設間の連携

子どもの館と同じ。

④ 営業・広報活動

テレビCMやラジオ、インターネット、市内の保育所・幼稚園・小学校などへのチラシの配布、子育て情報誌等への広告掲載などによる広報活動のほか、市民センターや親子ふれあいルームなどに出向き、遊具の一部を用いた体験型PR「出張元気のもり」を実施した。

【共通】

指定管理者が管理運営するホームページ「子育てマップ北九州」を中心に、子どもの成長や年齢に応じた情報提供を行うとともに、子育てに関するイベント等の情報をメールで配信するシステムを構築し、子育て家庭が必要とする情報を手軽に入手できるようにしている。また、同ホームページについて平成26年度からスマホ対応に取り組み、タイムリーな情報、欲しい情報がより手軽に得られるようになっている。

上記のとおり、両施設において、利用促進に向け、指定管理者による様々な独自の取り組みや積極的な広報活動が行われた結果、子どもの館の入館者数が目標を大きく上回り、子育てふれあい交流プラザもほぼ目標を達成できたことは評価できる。

子どもの豊かな感性や創造力を育み、子育て中の保護者の負担や不安感を解消するための総合的な子育て支援拠点施設として、「子どもの館」と「子育てふれあい交流プラザ」の両施設がこれまで以上に連携し、子育てに関する相談や講座、情報提供をさらに充実するとともに、関連施設の職員との人事交流や子育て支援に関する講座への積極的な参加などによる人材育成を図ることにより、両施設の子育て支援機能の更なる強化が期待される。

(2) 利用者の満足度

① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。	1 5	5	1 5
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取り組みがなされたか。			
③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。			
④ 利用者への情報提供が十分になされたか。			
⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。			

【評価の理由、要因・原因分析】

【子どもの館】

- ① 利用者の満足度
 - ア 子どもの館の印象

利用者のアンケートで「子どもの館」の印象を「非常に良かった」、「良かった」と回答した割合

子どもの館の印象	非常に良かった	良かった	計
平成26年度	42.5%	55.9%	98.4%
平成27年度	39.0%	59.1%	98.1%
平成28年度	44.4%	55.0%	99.4%
平成29年度	49.1%	50.5%	99.6%

“非常に良かった”“良かった”をあわせた割合は、各年度非常に高く、利用者の満足度は高いものとなっている。

“非常に良かった”“良かった”とする主な理由としては、「子どもが楽しく遊んでいる」「遊具が豊富」「安全に遊べる」「スタッフの対応が親切」などであった。

また、毎年指定管理者の創意工夫により特色のあるイベント等を開催し、数多く集客している夏休み特別展においては、平均76.1%と利用者の満足度は高い。

イ 子どもの館を利用した回数

利用者のアンケートで過去に「子どもの館」を利用した回数

	はじめて	2～5回	6回以上
平成26年度	23.6%	37.7%	38.7%
平成27年度	23.0%	40.5%	36.5%
平成28年度	28.8%	55.3%	15.9%
平成29年度	29.3%	53.2%	17.5%

各年度において“2回以上”の利用者が7割を超えるなど、利用者ニーズを捉えた満足度の高いサービスの提供により、多くのリピーターを確保している。

② 利用者意見への対応

利用者の意見をサービスに反映できるよう、アンケートや「キッズハウス」・「あそび工房」に設置している「お客さまの声」から利用者のニーズを把握し、可能な限り対応した（例：ホームページに障害者の利用料金表がなかったが、利用者の意見を受けて掲載）。

③ 苦情対応

利用者からの苦情は施設内のアテンドから職員、所長へと報告体制が整っており、相手方と連絡先が分かる場合は対応についてのフィードバックを行っている。また、主なものについては、随時報告があり、状況に応じた適切な対応がなされた。

④ 情報提供

子育て情報誌「ほっぷ・すてっぷ・キッズ」を毎月1回発行した。また、反響が大きかったコラム「子育てを楽しもう」（市立医療センター名誉院長 小児科医 廣澤元彦先生執筆）を冊子にし、利用者や子育て関連施設に配布した。

また、最新の地域の子育て関連情報、市政だより、子育て情報誌など、子育て情報を利用者に提供した。

⑤ サービスの質の維持・向上の具体的な取り組み

遊具、設備を常に最良の状態に保ち、安全に楽しく遊べる場所を提供するため、日常点検簿を作成して始業時などにアテンダント及び職員による点検を行い、サービス

の質の維持・向上を図った。

【子育てふれあい交流プラザ】

① 利用者の満足度

ア 子育てふれあい交流プラザの印象

利用者のアンケートで「子育てふれあい交流プラザ」の印象を「非常に良かった」、「良かった」と回答した割合

子育てふれあい交流 プラザの印象	非常に 良かった	良かった	計
平成 26 年度	50.3%	49.1%	99.4%
平成 27 年度	46.1%	53.1%	99.2%
平成 28 年度	51.5%	48.3%	99.8%
平成 29 年度	51.9%	47.9%	99.8%

“非常に良かった”“良かった”をあわせた割合は、各年度非常に高く、利用者の満足度は高いものとなっている。

“非常に良かった”“良かった”とする主な理由としては、「子どもが飽きずに楽しんでいる」「遊具が木でできていて安全」などのほか、スタッフの気配り、施設が清潔に保たれていること、魅力あるイベントに参加できたことなどがあつた。

イ 子育てふれあい交流プラザを利用した回数

利用者のアンケートで過去1年間に「子育てふれあい交流プラザ」を利用した回数

	はじめて	2～5回	6回以上
平成 26 年度	26.3%	51.9%	21.8%
平成 27 年度	27.7%	53.3%	19.0%
平成 28 年度	26.9%	52.8%	20.3%
平成 29 年度	27.6%	52.5%	19.9%

各年度において“2～5回”の利用者が半数を超えるなど、利用者ニーズを捉えた満足度の高いサービスの提供により、多くのリピーターを確保している。

④ 利用者意見への対応

施設全般に関するアンケートのほか、特に必要と思われるイベントについては別途アンケートを実施し、利用者ニーズを分析の上、できるだけ対応した（例：ホームページに障害者の利用料金表がなかったが、利用者の意見を受けて掲載）。

⑤ 苦情対応

利用者からの苦情は施設内のアテンドから職員、所長へと報告体制が整っており、相手方と連絡先が分かる場合は対応についてのフィードバックを行っている。また、主なものについては、随時報告があり、状況に応じた適切な対応がなされた。

④ 情報提供

「ライフスタイルライブラリー」において、地域の子育て支援や交流の場等に関する情報を利用者に提供した。

「サポーターだより」を作成し、「地域子育て支援フォーラム」の活動状況、登録サポーターの紹介、子育てふれあい交流プラザの近況報告等の情報を利用者に提供した。

- ⑤ サービスの質の維持・向上の具体的な取組み
 施設利用者が楽しく安全に過ごせ、かつ継続的に利用できるよう安全・安心、清潔、遊具の充実を念頭に、職員、アテンダントが日常より動作確認を行った。

2 効率性の向上等に関する取組み	30		18
(1) 経費の低減等	20	3	12
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。			
② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。			
③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。			

【評価の理由、要因・原因分析】

【子どもの館】【子育てふれあい交流プラザ】共通

① 経費低減の取組み

ア 経費（指定管理料）の削減

平成28年度からのコミュニティ全体の定期点検業務の委託契約更新に伴い、「子どもの館」負担分が増額（5,041千円）になったため、平成28年度及び平成29年度は指定管理料が前年比増加しているものの、当該増額要因を除けば、収入増加に取り組み、高い利用者満足度やサービス水準を維持しながら効率的な事業実施に努めたことにより、実質的には経費（指定管理料）は削減傾向である。

指定管理料	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
予算	272,838千円	272,362千円	276,973千円	274,227千円
決算	271,916千円	271,968千円	276,790千円	274,048千円

イ 省エネ・節電対策

スタッフによるこまめな消灯を行ったほか、照明の間引き点灯による省エネ・節電を推進した。また、両施設の職員からなる「エコ委員会」設置し、毎月の実績を確認しながら経費削減に努めた。

各年度別の水道光熱費は下記のとおり。

光熱水費	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
予算	53,650千円	52,500千円	48,700千円	47,030千円
決算	47,751千円	46,821千円	47,151千円	45,532千円

② 再委託の状況

設備の日常の保守点検、軽微な補修などは職員が対応し、指定管理者が履行できない専門的な知識や技術を要する業務を再委託するなど、経費が最小限となるよう適切な対応がなされた。

③ 経費の効果的・効率的な執行

利用者の声に常に耳を傾け、そのニーズを把握するように努め、費用対効果を念頭に事業を実施した。

(2) 収入の増加		10	3	6	
① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。					
[評価の理由、要因・原因分析]					
① 収入の増加のための取組みと効果 親子や家族と一緒に楽しめる様々なイベントを年間を通して開催し、夏休みや大型連休などには特別集客事業を実施した。 ホームページ「子育てマップ北九州」を活用し、イベントのタイムリーな情報発信に努めた。 市政だより、新聞、各種子育て情報誌、テレビ・ラジオを通じた広報や、地域行事に参加してPRを行うなど、様々な媒体での広報・PR活動を展開し、さらに、貸室利用の促進、ショップにおける取扱商品や売場構成の工夫などにより、収入増加を図った。					
収入		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
利用料金収入	予算	83,120千円	82,700千円	83,310千円	83,580千円
	決算	81,915千円	84,531千円	85,386千円	81,944千円
自主事業収入	予算	26,700千円	26,000千円	26,000千円	26,080千円
	決算	26,173千円	25,671千円	27,098千円	29,525千円
その他収入	予算	5,100千円	5,300千円	5,300千円	5,130千円
	決算	5,279千円	5,312千円	5,144千円	4,805千円
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み		20		14	
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況		10	4	8	
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。					
② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。					
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。					
[評価の理由、要因・原因分析]					
【子どもの館】【子育てふれあい交流プラザ】共通					
① 人員の配置 両施設とも所長管理監督のもと、適正な人員配置に努め、休日やイベント開催日など、多くの利用者が見込まれる日は、対応者の数を増やすなど臨機応変に対応した。					
② 職員の資質・能力向上 職員・アテンダント（子どもの遊びを見守ったり、付き添いをしたりする人）を対象に、接遇、安全管理及び子育て支援に関する研修を実施し、職員の資質向上を図った。					

③ 地域や関係団体等との連携・協働

ア 北九州子育てサミットの開催

各区の親子ふれあいルーム、ほっと子育てふれあいセンター、子育て支援サロン“びあちえーれ”、子どもの館、子育てふれあい交流プラザが連携して「北九州子育てサミット」を開催し、実行委員会を構成している各施設・団体・行政の具体的な取り組みや事業などを共有することにより、相互の理解や横のつながりの強化に取り組んだ。

イ ボランティアの受け入れ

青少年ボランティアステーションの体験活動の場の提供をはじめ、多くのボランティアや地元学生の実習の受け入れなどを積極的に行い、地域との連携を図った。

(ボランティアとして中高生、大学生、社会人が100名前後登録、毎年延べ約2600日活動)

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- | | | | |
|--|----|---|---|
| ① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。 | 10 | 3 | 6 |
| ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。 | | | |
| ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。 | | | |
| ④ 施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。 | | | |
| ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。 | | | |
| ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。 | | | |
| ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。 | | | |

【評価の理由、要因・原因分析】

【子どもの館】【子育てふれあい交流プラザ】共通

① 個人情報の保護

個人情報保護に関しては、北九州市個人情報保護条例や北九州市公式ホームページ管理運営要綱等を遵守しながら、子ども未来ネットワーク北九州のデータ及びプログラム保護管理規定を定め、適切な対策を講じている。

② 平等利用 ③ 公平選定

制限時間周知のためのタイマーの設置、定期的な館内放送、スタッフによる他の利用者への配慮のお願いなどにより、広く平等な施設利用ができるよう取り組んだ。また、参加者を限定したイベント等において、受付ルールを明確化するなど、公平に受付ができるよう努めた。

④ 収支状況

事業報告書等を精査した結果、特段不適切な点はなかった。

⑤ 事故防止などの安全対策

朝礼などを通じて、職員、アテンダント等に事故防止に対する意識づけを行うとともに、マニュアルに基づく館内巡回を行い、事故防止に努めている。

⑥ 危機管理体制

防火訓練（避難誘導・消火訓練等）を実施し、各所に配置したカメラによる監視も行っており、適切な管理体制となっている。

⑦ 事故発生時や非常災害時の対応

施設内で子どもの怪我などが発生した場合には迅速に対応するとともに、市所管課に速やかに連絡（電話および報告書提出）をし、結果についても逐次報告をしている。

【総合評価】

合計得点	75	評価ランク	B
<p>【評価の理由】</p> <p>両施設とも設置目的に沿った取組みを積極的に展開することにより、順調に利用者数を確保し、収入増につなげた。</p> <p>両施設とも利用者の声を活かした事業を展開することにより、利用者の満足度が非常に高い水準で推移している。また、利用者アンケートにおいても、遊具の内容、設備の安全性・衛生面、また、イベントやスタッフの対応などが高評価であり、利用者の満足度は総じて高く、両施設の利用促進が図られ、効率的で適正な管理運営を行った。</p> <p>地域のイベントや市民センターなどに積極的に出向き、両施設のPRやニーズの聞き取りを行うなど、地域との連携も図った。</p> <p>さらに、提案書の事業である「北九州子育てサミット」（子育て支援ネットワークの取組み）、「男2代の子育て講座」（子育て家庭のワーク・ライフ・バランスの推進）なども着実に実施し、両施設の魅力を高めた。</p>			

【北九州市指定管理者の評価に関する検討会議における意見】

利用者アンケートは、得られた意見をもとに、どのように改善していくかが一番大事なところである。現状評価に留まらず、改善に繋がるよう、これからも工夫していただきたい。

【評価レベル】

評価レベル	乗率		評価レベルの考え方
5	100%	良	要求水準を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普	要求水準を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適	不適切な管理運営がなされている

【総合評価】

- A：総合評価の結果、優れていると認められる
(合計得点が80点以上)
- B：総合評価の結果、やや優れていると認められる
(合計得点が70点以上80点未満)
- C：総合評価の結果、適正であると認められる
(合計得点が60点以上70点未満)
- D：総合評価の結果、努力が必要であると認められる
(合計得点が50点以上60点未満)
- E：総合評価の結果、かなりの努力が必要であると認められる
(合計得点が50点未満)